

第3回山ノ内町立適正規模適正配置等審議会 議事要旨

(開催日時・場所・出席者)

日時 令和6年8月2日(金) 午後5時00分～6時45分

場所 山ノ内町文化センター2階学習室

出席者 (委員)

・出席委員 21名

会長 原 隆文 (元小学校長)
副会長 佐藤 重子 (主任児童委員)
宮澤 昭雄 (東小学校PTA会長)
高相 慎吾 (南小学校PTA会長)
中島 学 (西小学校PTA会長)
小泉 一真 (ほなみ保育園保護者会長) ※代理出席
杉戸 香奈 (よませ保育園保護者会長)
丸山 恵美子 (すがかわ保育園保護者会長)
畔上 三行 (区長会会長・宇木区長)
芦原 喜久司 (区長会副会長・上条区長)
下田 清人 (区長会副会長・須賀川区長)
湯本 文洋 (東小学校長)
中村 まゆみ (南小学校長)
竹内 由紀 (西小学校長)
山口 近 (山ノ内中学校長)
鈴木 隆夫 (町子ども会育成連絡協議会長)
高田 佳久 (町議会議員 社会文教常任委員長)
西澤 誠一 (公募委員)
佐藤 匡則 (公募委員)
田中 晴男 (公募委員)
湯本 市蔵 (公募委員)

(事務局)

山ノ内町教育長 竹内 延彦

山ノ内町教育委員会事務局 教育次長兼こども未来課長 望月 弘樹

山ノ内町教育委員会事務局 こども未来課 学校統合準備係長 山本 敏幸

山ノ内町教育委員会事務局 こども未来課 学校統合準備係 畔上 俊樹

欠席者 (委員)

高相 大作 (志賀高原保育園保護者会長)
宮崎 未希 (かえで保育園保護者会長)
内田 健一 (区長会副会長・穂波温泉区長)

傍聴者 8名 報道関係 3社

1. 開会 （望月教育次長）

2. 会長あいさつ （原会長）

- ・第2回の審議会では参加した委員全員から小学校の統合に係る意見を聞いた中で、委員皆様が様々な考えを持っており、このままでは諮問に対して方向付けるのは難しいと感じた。今回の会議では事務局で論点を整理した資料を作成しているので、その内容に沿って議論を深めていきたい。
- ・事前確認として、令和4年3月に策定された山ノ内町立小学校適正規模及び適正配置に係る基本方針の中で、3小学校の統合位置は中学校敷地とするという文言が現状立ち行かなくなつたため、統合に係る適正規模適正配置や小中一貫校の検討について審議いただくものであり、この基本方針をゼロベースで作り直すものではないことを承知していただきたい。

3. 報告事項 （説明 学校統合準備係 山本係長）

(1) 第2回審議会での意見等 <配布資料1>

- ・第2回審議会でも出された意見を5つの項目で整理した。1つ目の小学校の統合については3校統合に係る意見、2つ目は段階的統合を行った場合の統合場所はどこが良いのかという意見、3つ目は3校統合における小学校の統合位置について、4つ目は小中一貫校に関する意見、5つ目はその他統合に係る意見として、通学方法や統合に関する経費的な面などの内容をまとめた。
- ・統合場所や段階的な統合など委員から様々な意見が出されたことから論点を整理しながら、統合に係る意見を取りまとめていくために、論点をフローチャートにして順を追って検討していただければと考えている。（配布資料2）
- ・統合については委員の多くが賛成という見解の中で、争点になるところは2学級以上とするかどうかの検討で、2学級以上必要ということであれば、3校1校統合をする中で小中一貫校を目指すかどうかの検討をしていく。
- ・2学級以上は必要ないとなれば、段階的な統合により2校統合を目指すかどうかを検討し、段階的な統合が必要ないという判断になれば、今回の統合にかかわる審議はいったん終了となる。必要となれば統合場所の検討、将来的に小中一貫校を目指すかどうかの検討をする。
- ・このように順を追って話を進めていかないと意見が整理できないため、論点整理の資料を作成した。

4. 会議事項 （議長 原会長）

- ・山ノ内町立小学校適正規模適正配置等審議会条例第6条により、原隆文会長が議長となる。

(1) 小学校統合に向けての論点整理について <配布資料2>

(原会長)

- ・事務局で示された論点整理に沿って、統合について委員の意見を伺いたい。

- ・また、この論点整理についても意見がありましたら発言をしてほしい。
- ・1学級あたりの児童数20～30人規模とするについては、令和4年3月の適正規模適正配置基本方針で決定していることであるので、統合を前提として次に進めたい。
- ・1学年あたりの学級数が2学級以上とするについて、3校を1校統合するかどうかの議論となるが、委員の意見を聞きたい。

(委員)

- ・フローチャートによる論点整理について反対。3校1校統合を前提とする意図的なものを感じるため、別の方法による議論が良いと思う。
- ・1学年2学級以上にするとあるが、3校1校統合をしても35人以下になれば1クラスになることを、教育委員会は想定しているのか。南小と西小の2校案にすれば1クラスずつになり2学級になるので、1校統合にしないほうが学級数は減らないのではないかと。
⇒(事務局) そのことは想定しており、3校1校統合に反対であれば、段階的な統合による2校統合を選択してもらい、次に小中一貫校(併設型)による1校統合を目指すかどうかで、目指さないという選択になれば2校による小学校統合案になる。

(委員)

- ・フローチャートの論点整理ではなく、最初に中学校敷地へ小学校を造っていいのか、西小に小中学校を持っていくのがいいのかを議論したほうが、早くてわかりやすいのではないかと。
⇒(原会長) 適正規模適正配置の基本方針に沿って、論点整理をしているのでご理解いただきたい。

(委員)

- ・去年の初めまでは中学校敷地に小学校を新築する統合が決まっていたが、令和5年3月に町長が変わり、中学校敷地への統合は立ち止まって既存小学校の活用も検討してほしいという話から今に至っている。当審議会委員も様々な考えや思いを持っているので、それをまとめるというのは非常に大変な作業となる。このままお互いの意見を主張しあっても平行線になるので、良い悪いは別にして事務局で提示してもらったフローチャートで段階を追って進めていくほうが良いと考える。

(原会長)

- ・会議の進め方についての意見をいただいた。前回審議会で出された委員の意見がこのフローチャートに全て含まれている。個人の考えもあると思うが、フローチャートにのっとり賛否の意見についてメリット・デメリット等を加えて言っていたらいい。

(委員)

- ・このフローチャートで行くと1学年2学級以上とする賛否をとることになると思うが、前回審議会委員の意見を述べていただいているので、自分が思っている考えを素直に述べてもらえばよいと思う。

(2) 質疑・意見交換等

(委員)

- ・段階的統合は子どもたちの負担がかかるので、小中一貫校を目指す統合が良いと思う。
- ・私の周囲の保護者何人かに聞いたところ、統合するなら最初から小中一貫校が良いと言う意見が多くあった。

(委員)

- ・前回の意見から変わるが、周囲の人たちにも意見を聞いたところ中学校敷地での小中一貫校を進めてほしいという意見が多数を占めていたので、中学校敷地に小中一貫校での統合を賛成する。

(原会長)

- ・小中一貫校の考えに関する意見について周囲からは聞いていないか。

(委員)

- ・小中一貫に対する考えの意見は特になかったが、当初から中学校敷地に小学校の新築という計画があったので、それを速やかに進めるべきという声が多かった。また、段階的な統合で西小へ統合しても、将来的に小中併設型の一貫校の建設を目指すのであれば、いずれ建築費用が掛かってくるので、最初から予算を立てて新しい学校を作っていくほうが良い。統合を先に延ばしても、その時になって予算がないのでできないという可能性もあるから、今、統合を進めるべきという意見が多かった。

(委員)

- ・西小への統合について賛成である。将来的に西部地区が住宅エリアとして整備されるなら人口も増えてくるのでよいと思う。国道403号線の拡幅改良工事も併せて実施してもらえれば、3校を西小に統合してもよいのではないかと考える。

(委員)

- ・現在どこの小学校も1学級となっている。その状況で教育ができていないということはない。1学年1学級でも学校運営はできており、2学級以上とする必要はないと考えるので3校1校統合ではなく、南小と西小の2校を使っての統合が良いと思う。

(委員)

- ・先ほどの委員と同様、1学年1学級でも問題ないと考えている。

(委員)

- ・1学級で少ない人数の中で学んでいくこともよい面はあると思うが、2学級でたくさんの人とふれあっていくことにも良い面があると思う。その中で将来的に子どもの人数が減ってきているため統合を検討していると思う。今は1学級で問題ないと思うかもしれないが、親としては多くの人たちとふれあって育ててほしいという思いがあるので、これから子どもたちがもっと少なくなってしまうかもしれないが、今この段階で1学年2学級が実現できるのであれば3校1校統合を目指してほしい。

(委員)

- ・南小と西小の2校を使って統合という話があったが、東小の子どもたちはどちらかの学校に分かれて通うことになる。その子どもたちの気持ちをどう考えるのか。一緒のクラスの仲間たちと一緒に学んでいくことが良いので、大人たちの都合で段階的な統合によって子どもたちが犠牲になるのは違うと思う。

(委員)

- ・東小と西小を活用になっても南小の子どもたちが分かれてしまうので、状況は一緒であり先ほどの話の理論では納得できるものではない。

(原会長)

- ・先ほどの意見について、段階的統合は統合される側の小学校の子どもたちは、残る2校に分かれてしまうため、子どもたちに負担がかかってしまうことを考えると、3校1校統合が望ましいという内容である。

(委員)

- ・私は小学校統合には賛成であるが、最初にも言ったようにこのフローチャートで進めることが問題あると思っている。中学校敷地に小学校を新築することで、小中どちらも狭い環境で学ぶことが子どもたちによくないと考えているから反対である。また西小への統合についても、いずれ用地買収をしたのち中学校を移転してまで小中一貫校にする必要があるのかが疑問である。そこを論点に議論したほうが良いと考えている。

(委員)

- ・中学校敷地では狭いという発言があったが、中学校周辺の用地買収の可能性はあるのか。
⇒(事務局) 別添でお配りしている中学校敷地へ小学校の新築の配置図案と面積等の資料を見ていただくと、特別教室をすべて配置しており余裕教室もなく手狭な学校になってしまうが、小中併設型の一貫校であれば、中学校の特別教室を共有して使用することもできるため、例えば図工室や家庭科室などを中学校と共有することで小学校の教室のスペースが十分確保されると考えている。そのため現状では用地買収は検討していない。
補足として、中学校敷地を広げるスペースの用地はあると思っている。中学校敷地へ統合が決まった際は用地買収も視野に検討していくことはできる。

(原会長)

- ・中学校敷地では狭いという質問に対し、小中併設型の一貫校にすれば中学校敷地に小学校を新築しても十分にスペースが確保できると事務局より説明があった。

(委員)

- ・長寿命化工事を行った中学校敷地に小学校を新築して、小中一貫校にすることは法的に問題ないのか。補助金や借金をしてまで長寿命化改修工事した中学校を小学校と共有して校舎を活用してよいのか疑問である。用途替え使用にならないのか教えてほしい。
⇒(事務局) 中学校敷地へ小学校新しく校舎を建てるので、小中一貫校にすることは問題ない。実際に他でも同様に活用されている事例がある。小中併設型一貫校になるため、いろいろな手続きをする必要はあるが、補助金や起債(借金)の返還対象にはならない。

(委員)

- ・教育委員会の認識が足りないと感じる。中学校敷地に小学校ができるとスペースが狭くなり、いずれくる中学校を建て替えるときに余裕スペースがなくなり、建て替えが困難になるのではないかと考えている。

⇒（事務局）グラウンド等のスペースを活用しながらの建て替えが想定される。体育の授業等に多少の影響はあると思うが、十分対応可能と考えている。

（委員）

- ・統合を前提で考えれば、段階的統合ではなく3校1校統合で西小へ統合に賛成。小中一貫校にする必要性がわからない。学校の先生方はわかると思うが、委員を含め大勢の方は小中一貫校の内容をよく知らない。小中一貫校の制度はメリット・デメリットがあり、一貫校の学校数が多くないことを考えるとそこまでの必要性がわからない。小中一貫校にすれば子どもや保護者等にいろいろな負担がかかってくるので反対である。

（委員）

- ・小中一貫校について、近隣では豊田小中学校が小中併設型（連携）で取り組まれており、信濃小中学校は義務教育学校で9年制カリキュラムによる学校運営がされている。
- ・小中一貫教育にはメリット・デメリットはあるが、これから山ノ内町の子どもたちが義務教育の9年間でどのように育ててほしいかを考えたとき、故郷に誇りを持てる子どもたちになってほしいという思いから、小学生と中学生が一緒になって学ぶ環境が整うことで成長していく姿がメリットになると感じている。

（原会長）

- ・小中一貫校のメリット・デメリットについて、理解が深められていないと思うので次回までにその資料等を事務局で準備していただきたい。

（委員）

- ・私の中で小中一貫の考えは、小学校と中学校が併設している学校という認識でいる。
- ・小学校と中学校とでは授業時間数や日課が違うため大変な部分もあるが、小学校や中学校の良いところがそれぞれある。小学生が間近で中学生の姿を見ることで憧れを抱くことやともに過ごすことで成長していく姿がよいと考えている。クマが出没したという情報があったときも、中学生が小学生と一緒に登下校することもできるなどメリットがある。

（委員）

- ・小学校統合については長い間議論されてきた中で、3校を1校統合し新しい校舎で子どもたちが希望を持てる学校づくりができるという期待をしていたが、今はその状況が変わってきたと感じる。この審議会事務局から初めて段階的な統合案が示されたが、子どもたちや保護者の負担が大きいことが一番の理由で段階的統合に反対をした。
- ・段階的統合で1学級の人数が30人規模位になり大勢の中で学ぶメリットもあるが、先生の数が増えない中で、1人の先生が見る子どもたちの数が増えて負担が多くなる。3校1校統合で1学年2学級になるのであれば、統合するメリットがあると考えている。
- ・小中一貫校について、小中併設になることで子どもや先生たちが連携しやすくなる。ESD教育では山ノ内町の自然豊かな環境を最大限生かし、小学校と中学校も一緒に町をあげて取り組んでいる。将来的に持続可能な担い手として子どもたちを育てていくことが大事であると感じている。ESD教育含めた山ノ内町らしい教育を充実させるためには、小中併設の一貫校にすることがよいと考えている。

(委員)

- ・区を代表しての考えがまだはっきりしていないが、これから地域の子育て世帯の保護者を集めて意見を聞く予定でいる。私個人は中学校に小学校を併設した一貫校に賛成。段階的統合は子どもや保護者に負担がかかるのであれば、3校1校統合にしたほうが良い。

(委員)

- ・少し論点が変わってしまうが、PTAの立場で考えを述べたい。子どもたちの数が少なくなりPTA役員を決める際、昔なら役員を1回やればよかったのが、2回、3回と役を受けることが多くなってきている。PTA会長の役を決める際もなかなか決まらない状況である。PTAの在り方については全国的にも問題になっており、ある学校ではPTAをなくしたところもある。その中で今回の統合の議論をしていく際、各学校のPTA役員の選出方法や活動内容、予算もバラバラな状態をどのようにまとめていくのが非常に課題である。もし段階的統合となったときは、PTAの統合についても同じ作業を2回する必要があり非常に手間がかかるので、統合するのであれば3校1校統合で1度に統合したほうが良いと考える。

(委員)

- ・子どもたちの学べる環境や費用の概算を見る限りでは、小中併設型の一貫校にしたほうが良いと考える。

(委員)

- ・校長先生やPTA会長のお話を聞いた中で、3校1校統合が良いという感じがする。子どもや保護者の負担が少ないほうが良いと思う。また、校長先生の説明でもあった小中併設型の一貫校についても腑に落ちて良いと感じた。

(委員)

- ・小中併設型の一貫校に賛成。西小に統合は反対であり、志賀高原から通う子どもは、今よりさらに朝早く通学することとなり負担になると思われるので、中学校敷地での小学校併設に賛成。

(委員)

- ・資料にある施設改修費用等について、西小に3校統合になった場合は長寿命化工事と増築工事を合わせた内容になるのか説明をしてほしい。

⇒(事務局) 西小での3小学校を統合となった場合は、長期的に校舎使用するため長寿命化工事を行わなくてはならない。また、現状のままでは教室数が不足するため、長寿命化工事に合わせて増築工事が必要になるので、それぞれ合わせた費用が工事費になると考えてほしい。

東小と南小については、将来的に西小か中学校敷地への統合を考えているので長寿命化工事の概算費用は出ているが実施する予定はない。

中学校敷地案の小学校新築は第1回審議会の資料でお示しした内容で、最大限費用をかけずに建設した場合の概算費用となっている。

(委員)

- ・西小で3校1校統合することに賛成。子どもたちにできるだけ早く新しい環境の中で教育を受けさせてあげたい。子どもたちのための統合であるので、予算や通学方法などの課題

の議論も大切だけれど、児童数が減ってきている中で少しでも早く統合し、大勢いる環境で学ばせてあげたいので、一番早い年度で開校できる西小への統合が良いと思う。

- ・小中一貫校についてはよいと思うが、今すぐ行う必要はないと考えている。将来的（10年過ぎたころ）に、保育園を含めた小中一体的な教育を検討していけばよいと思う。

（委員）

- ・前回の会議で小学校の統合はできるだけ早く進めなくてはならないという印象を受けた。そのためには今回事務局案で提示してもらった段階的統合に賛成である。

（原会長）

- ・段階的統合に賛成という意見があったが、子どもや保護者の負担が大きいという意見もある中で、どのように感じるか意見をいただきたい

（委員）

- ・私は教員として実際に町外の学校統合に関わらせていただいた経験上、PTA統合や各学校の地域コミュニティスクール（学校運営委員会）との関係を整理していくには莫大な作業となり時間がかかる。少なくとも2年以上かけて検討していく必要があるので、段階的な統合となればそれを2回行わなくてはいけないため、とても大変だと感じている。

（委員）

- ・統合するのであれば、3校1校統合に賛成。段階的な統合では子どもたちへの負担が大きい。また、教育現場とすれば段階的統合は統合に係る準備調整を2回しなくてはならないため、その時間に追われてしまい子どもたちへの教育に集中しづらくなってしまいうので難しいと思う。
- ・小中一貫校（併設型）については、山ノ内町の小中学校が子どもたちにどのような教育して行きたいかの将来ビジョンが大事であると考えている。そのビジョンから小中一貫にするかどうかの検討になると思うので、どんな学校統合にしていきたいのか、山ノ内町の意向を明確にしていくことで方向が見えてくると思う。

（竹内教育長）

- ・これから保護者や地域への懇談会を検討していく中で、委員と事務局との意識を共有したいため発言させていただく。今まで教育委員会は学校統合の議論の中で3校を1校統合し場所は中学校敷地とする方向で昨年の3月まで進めてきた。同時期に町長が変わり統合についても、いったん立ち止まって再検討という中で1年間議論検討してきた。令和6年3月の総合教育会議において町長のまちづくりプランを示され、西部エリアを文教地域として公立学校を持っていきたいという考えがあり、西小への統合案が出てきたことを認識しておいてほしい。
- ・また併せて知っておいてほしいことは、令和6年3月議会の町長の発言で、小学校統合についてはハード事業からソフト事業へと財政面での方針転換が示され、ハード面についてはできるだけコストをかけないで統合を目指してほしいと指示があった。その方針を重く受け止め教育委員会では2段階統合の新たな案を示してきた。その背景に町長のまちづくりプランとハードからソフトへの方針転換が示されたことの2点が大きく影響していることを認識してほしい。

- ・教育委員会では子どもたちを第一に考えて統合を検討していく中で、よりよい教育環境を作り上げていくために、委員皆様から将来ビジョンを見据えて発言をいただければと思っている。

(委員)

- ・諮問にもある小中一貫校の内容やメリット・デメリットについて、審議委員全員が理解してどうしていくのかを検討していかないと結論が出ないと思うので、次回会議では説明資料を用意していただけたらいいと思う。
- ・段階的な統合については、西小と北小が統合した際も子どもが在校中に2度統合を経験しないよう配慮されていたことを考えると、子どもや保護者にかなり負担がかかるという印象を受けた。もし段階的統合をするのであれば、その準備調整を綿密に精査していかないといけないと感じた。

(佐藤副会長)

- ・子どもたちにとって何が良いのか難しい問題であるが、委員全員が子どものことを考えて議論を交わすことが素晴らしいと感じた。
- ・1学年2学級については、私は2クラスある環境はすごく良いと感じている。2クラスあれば、クラス単位でお互い切磋琢磨することもできるしクラス替えもできる。クラス替えによってまた新しい友達ができるということもあり、わくわくすることがたくさんあるので子どもたちに必要な環境だと感じている。

5. 連絡事項

- ・学校統合について保護者の意見が重要ととらえており、保護者懇談会の開催を検討している。PTAや小学校を通じて開催日程等を調整し実施していきたいと考えているので、協力をお願いしたい。保育園の保護者については、保育園を通じてお迎え等の時間の前後に設定して懇談会をする方向で検討しているのでご承知願いたい。また、懇談会の日程等が決まったところで委員の皆様にご連絡をする予定でいる。

6. 閉 会